

今年是新幹線誕生して五十周年を迎へけり。新幹線生みの親と申すべき十河信二そがふ國鐵總裁の生涯が見事にこの上下巻にまとめてあり。十河信二氏につきては亡父郷里の父(西條市にて醫院開業、外科醫)とは舊制西條中學の同窓にて親しく往來ありしを、十河氏揮毫の色紙も我が家に相承けてあり。生涯、十河氏が師と仰ぐ後藤新平伯は日本の鐵道は廣軌にすべしと生存中その實現へと目指しながらも果せざるも、その願ひを新幹線として實現せるは、十河氏より師後藤伯への何よりの供養となりぬ。

十河氏の長女加賀山由子様(加賀山國鐵總裁夫人)の『銀の軌道』に

『亡き父、亡き夫への鎮魂のおもひをこめて名付けられし歌集あり。』

この中に、『逝きし父の面影と新幹線への思ひを詠めり』

◎大風呂敷 後藤新平との論争に 明治の男の浪漫廣大

◎新幹線 企畫せる父死してなほ 國鐵の夢の中に生きあむ

◎初夏の陽は澄みて清しさやけ 降り立つは亡父の故郷 愛媛西條